

ON!

Old but New

古い新しい

伝統を残しながら、変わり続ける街大丸有

大手町・丸の内・有楽町の

街づくりを発信する情報誌

えっ!
大丸有で
ネイチャーウォッチング?
～大丸有自然観察 MAP



あんなに可愛らしい虫、
見つけたよー!



バラを上手に
撮れたよー!



巣箱もあつたよー!



2013 SUMMER

029

自然を見つけに大丸有を探検しよう

～誌上エコキッズ探検隊

START



「奇二先生がいなければ気がつかなかった」(photo by MAO)

1 東京国際フォーラムのケヤキに、てんとう虫の幼虫を見つけた!
有楽町にある「丸の内さえずり館」を出発して、東京国際フォーラムの中庭へ。ここでさっそく奇二さんがルーペを持ち出して幹を観察。よ〜く見ると黄色の斑点が…。これが何と、てんとう虫の卵でした。真央（まお）ちゃんがすかさずカシヤ。見事な記録写真になりました。



▲「こんなにきれいになったよ!」(photo by HARUNO)



▲「オニタビラコってタンポポにそっくり!」(photo by MAYU)

歩道の脇にハートの葉っぱ。これで磨くと10円玉がピカピカ。
ハートの形を3個くっつけた形の葉で10円玉を磨くとピカピカに。酢やソースで磨くのと同じ原理で、シュウ酸という酸の力(化学反応)できれいにしてくれるのです。このカタバミの葉にはヤマトシジミが卵を産みに来ます。カタバミの近くに、麻由（まゆ）ちゃんはタンポポの葉に似ているオニタビラコを見つけてパチリ。



講師：奇二 正彦さん



2



「こんな大きなかたつむり見つけた」(photo by HARUNO)

3 三菱東京UFJ銀行本店前には、アオシジメガハが来るかも。
葉が独特の強い匂い(樟腦の匂い!)がする楠。この葉っぱを食べるのがアオシジメガハの幼虫で、卵を産むのは楠科の木の子。悠乃（はるの）ちゃんが卵を探そうと葉っぱを裏返してみたら、何と予想外のカタツムリを発見。



4 東京駅近くのプラタナスの木は、スズメのお宿に!
プラタナスの木には洞があって、ここはスズメやシジュウカラにとっての絶好の住まい。しばらく見ていると洞に出入りする姿を目撃できるよ。



▲「スズメ来ないかな…」(photo by MAYU)

5 花のように見えるのは、総苞片です!



JPタワーの不思議な木にみんな夢中!

“郵便局の木”といわれるこの木の正式名称は「タラヨウ」。尖った割箸で葉っぱの裏側に字が書けます。まさに“葉書”。運が良ければ葉っぱが落ちているから、実験してみよう!



6 三菱一号館広場には巣箱があったよ。

胸に黒いネクタイ模様があるシジュウカラ。その子育てを助けるためにつくられたのがこの巣箱です。直径28mmの巣箱の穴はシジュウカラが好むサイズで、スズメは入りにくいそうです。その近くでは真央ちゃんがプロペラを発見?! いいやこれは、イロハモミジの種でした。



▲「このまま飛ばせそう」(photo by MAO)

TOKIA 横では、きれいに咲き誇るヤマボウシの仲間らうっとり。
花のように見える部分は実は総苞片。その中心の球状の周りには淡黄色で小さな粒々が花です。奇二さんは愛用のiPadで「秋には赤い果実がなるよ」と説明してくれました。



7 樹の葉の蜜にも、よ〜く聞くとわけがある!

和田倉噴水公園までテクテク行進中に出会った桜の木。葉と枝の間の茎みたいな部分から蜜が出ていて、それをアリが食べに来ます。じつはアリは雑食で、他の昆虫に恐れられているようで、アリが来ることで他の草食系の昆虫から枝は身を守っているのだそうです。



8 終着点の和田倉噴水公園。
みんなよく頑張って歩きました! いままで知らなかった、大丸有の自然に出会えた2時間でした。



登生くん

悠乃ちゃん

真央ちゃん

麻由ちゃん

大丸有自遊学 SPOT



A 東京交通会館「コリーナ」
(有楽町 2-10-1 TEL.3212-2931)
「コリーナ」とはフランス語で「丘」の意味。豊かな花と緑に囲まれた人にやさしい憩いの空間。また、ここは知る人ぞ知る、新幹線が行きかう姿を間近に見ることのできる穴場的なスポットとしても有名。



B 丸の内さえずり館
(有楽町 1-12-1 新有楽町ビル 1F
<http://www.m-nature.info/>)
自然保護・環境保全に興味を持ってもらうことを目的に、さまざまな自然保護団体との協働企画によるパネル展示のほか、イベントセミナーを行う。スケジュール等の確認はHPで。



C JPタワー
屋上庭園「KITTE ガーデン」
(丸の内 2-7-2 TEL.3216-2811)
KITTEの6階に広がる広大(約1,500㎡)で、解放感抜群の屋上庭園。ここから見る丸の内周辺の景色は、今まで体験したことのない一大パノラマ。とくに隣接する東京駅は、他では見ることができない迫力がある。



D 三菱商事本店「MC FOREST」
(丸の内 2-3-1
<http://www.mitsubishicorp.com/jp/ja/mcforest/>)
丸の内、森を感じることができる「MC FOREST」。写真の「森のコースター」は芽吹～成長～さまざまな生物が生息する森へ、遊びながら学べる木製のカラクリ。一回遊ぶごとに三菱商事が1本、植樹を行っている。

大丸有地区には自然を体感したり、学んだりすることができる施設やスポットがいっぱい。街の自然観察をしながら、こうした場所を巡って歩くのも楽しいものです。きっと、夏休みの宿題にも役立ちますよ。
*赤色の線は、前頁の「誌上エコキッズ探検隊」が歩いた経路です。ぜひ、体験してみてくださいね!



ここにある人工池「プラザ池」で、5年ぶりにカルガモのひな10羽が誕生。このうち何羽のひなが歩いて皇居のお堀へ渡るかな!?



E 新丸ビル「壁面緑化」
(丸の内 1-5-1 TEL.5218-5100)
環境との共生が大丸有地区の重要なテーマの一つとなるなか、新丸ビルでは環境活動の先進地区として、ヒートアイランド対策や地球温暖化防止につながる壁面緑化を、1階北側の壁面で行っている。

F 大手町1-6計画「大手町の森」
(2013年完成予定)
(大手町 1-5-5)
大手町の森(約3,600㎡)は「都市を再生しながら自然を再生する」を開発コンセプトに、さまざまな地被類・低木を備えた地盤面に、200本を超える高木を密集させた「本物の森」としての創出を目指している。

G 気象庁「気象科学館/アメダス」
(大手町 1-3-4 TEL.3212-8341)
日本国内約1,300か所の無人観測施設である「地域気象観測システム」の通称アメダス。ここではアメダスで使用される積雪計・通風型乾湿計・雨量計・風向風速計を実際に見たり、触れたりすることができる。

H 大手町フィナンシャルシティ「エコミュージアム」
(大手町 1-8-3
<http://www.ecomuseum.jp/>)
先進環境技術の実証の場であると同時に、人の五感に基づく感覚環境に訴えかける演出が、楽しみながら就業者や来街者の環境への気づきを促す、啓発と発信の場。

この街の自然に

ついて語ろう！

奇二 正彦

(株)生態計画研究所主任研究員／NPO法人生態教育センター主任指導員

大丸有地区の自然に着目したのは4年ほど前のことです。「丸の内さえずり館」で私が所属するNPO法人の活動報告をする機会があり、そのとき、せっかくこの街に来たのだからと丸の内界隈の自然を観察し、その成果を展示しました。これが思いのほか好評で、以降現在まで毎月丸の内の生き物調査を行い、その調査結果をテーマを変えて館内で展示しています。4年間観察し続けると、この街のいろいろな自然が見えてきます。とくに、他の街に比べて野鳥が多いことに驚かされます。たとえば、一年を通してカワラヒワやメジロ、シジュウカラなどを街中でよく見かけます。また冬には、少し注意すれば仲通りをユリカモメが飛んでいるのに気づくはずですが、大丸有地区の魅力は、皇居や日比谷公園などの緑とお濠などの水辺が有機的につながっていることです。海が比較的近いのもユニークで、こうしたロケーションが生物多様性を支え、野鳥が生きやすい環境をつくっているのだと思います。

大自然の中に行くと、そこではさまざまな生き物の関係性が複雑に絡み合い、ダイナミックな生物多様性が繰り広げられています。それに比べ、都心の自然のスケールは遙かに小さいものです。しかし、それだからこそ、一つひとつの生き物のつながりが見えやすく、初心者も学ば「場」としては、むしろ都心のシンプルな自然のほうが向いているといえます。

大丸有地区で自然観察をするときのポイントは街路樹の下です。ここには唯一土があり、そこに種が飛んできて育っていき、人間が意図したものとは違うさまざまな種類の野草を発見することができます。また、野鳥も見逃せません。ハヤブサは海沿いの崖の上にとまり、そこから下を見て獲物を探る習性がありますが、ちょうどビルの鉄塔の上が疑似崖になり、そこから獲物を見つけて飛び立つハヤブサの姿を見ることができます。またカワセミは土壁に5センチくらいの穴を掘って卵を産む習性がありますが、最近ではコンクリート壁の水抜き穴を巣の代わりにしている個体が都内で確認されています。わずかな土の中で生き抜く雑草や、ビル街の人工物や街路樹にうまく適応して生息する鳥たちを見ていると、環境に適応しながら生き抜いている逞しさを感じます。

夏には東京国際フォーラムでは桂の木の下でクチナシの白い花が咲き、秋になれば桂が紅葉して甘い匂いがしてきます。そして、仲通りで耳を澄ませば、エンマコオロギ、カネタタキ、アオマツムシなどの鳴き声も聞こえて来ることでしょう。いつもの街を、ちょっと視点を変え注意深く観察して歩いてみると、あちらこちらに四季折々の自然を見つけることができるはずです。

自然の摂理が働いている大丸有
ここにも生物多様性がある

自然との新しい共生を考える
ちよだ生物多様性推進プラン

当区は、今年3月に「ちよだ生物多様性推進プラン」をつくりました。直接のきっかけは、生物の多様性を確保し、その恵みを将来にわたり享受できるようにとの趣旨から2008年に成立した「生物多様性基本法」です。しかし、プラン策定の背景には、活発な社会経済活動に伴って大量の資源やエネルギーを消費しながら、その大半を区外に頼っているという千代田区の現状と、だからこその自治体のモデルとして環境問題に積極的に取り組んでいこうという区の思いがありました。

生物多様性は、3つのレベルで考えることができます。まず一番大きな括りは、森や草原、川といった生態系の多様性です。次に、それぞれの生態系にはさまざまな生き物が生息している種の多様性を作っています。さらに同じ種類の生き物でも形や模様の違いといった遺伝子の多様性があります。こうした生物多様性の捉え方を踏まえながら、千代田区なりに、区内のさまざまな生き物の存在や相互のつながりを意識し、それを守り、拡大していこうというのが「ちよだ生物多様性推進プラン」です。このプランを推進するには、たとえば街路樹ひとつとっても区内を同じ樹木で統一するのではなく、樹種を変えていく工夫が必要です。また、きれいに整えられ、管理もしやすいという今までの“公園の常識”から少し見方を変えていくことも大切です。単に緑を増やすという“量的”な視点だけではなく、生物多様性を保持するためにはどのような緑地であるべきかという“質的”な議論も求められます。

千代田区の特徴は何といっても、その中心に23区随一の生物多様性を誇る皇居があることです。ここを中心に、麴町地区の庭園や外堀を介して赤坂御用地方面へ、また、駿河台界隈の緑地や神田川を経て上野の森方面へと、マルチアングルに豊かな生き物のネットワークを広げていくことがこのプランの目標となっています。そうした水や緑のネットワークを築くためには、区としても、公園等の緑化を推進するだけでなく、「生物多様性」という考え方を広く区民や事業者にも理解してもらったり、教育研究機関、環境保全団体、国や周辺自治体と一体となって情報を共有し、連携した取り組みを進めたりすることが重要と考えています。とりわけ、大丸有地区の事業者の方々とは、皇居、大丸有エリア、日比谷公園などを経て、お台場から海岸線へとつながる豊かな生物多様性の広がりを共につくっていくことができると願っています。また、就業者の方々も、国内外で事業活動を展開される際、その土地ごとの生物多様性に配慮することで、効率性や効果性という尺度とはまた違う、新しい豊かさを築いていただけないかと期待しています。

島崎 友四郎

(千代田区環境安全部長)

大丸有「打ち水プロジェクト2013」スタート ～今年は盆踊りまつりも併催

大丸有地区内の就業者や来街者に参加を呼びかけて実施している「大手町・丸の内・有楽町 打ち水プロジェクト」が、今年も7月26日(金)からスタートします。「打ち水」は地球温暖化問題の大きな要因となっている夏のヒートアイランド現象を緩和しようというもので、『環境配慮型街づくり』のコンセプトのもと、当地区では2005年から開始し今回で9回目を迎えます。



「打ち水」の水には上水を使用せず、雨水や排水を再生処理した中水を利用。三井物産株式会社/物産不動産株式会社/丸の内熱供給株式会社/株式会社東京国際フォーラムにご提供いただきます。そして、「打ち水」は日本に脈々と伝わる、世界に誇る江戸文化の知恵といえますが、その効果も測定してみようと、今年も『打水感測2013』を実施予定です。

さらに今年も、「打ち水」以外にも「涼」を体感していただけるコンテンツとして「東京丸の内盆踊りまつり2013」を7月26日(金)に開催。この盆踊りまつりでは、東京音頭の元歌として知られる「丸の内音頭」を浴衣姿で披露したり、丸の内仲通り(丸ビル前～丸の内パークビル前)ではキッチンカーも登場。一部リユース食器を使って環境に優しいだけでなく、売上の一部相当をグリーン電力購入に当てることになっています。

今年も夏のエコ意識を高めるとともに、「打ち水」を通して、エリア内外の連携を強め、参加者の方々が同じ共通意識を育てる『場』となることを目指しています。昨年よりさらにスケールアップした「打ち水プロジェクト2013」、みなさまもぜひご参加ください。



■ 大手町・丸の内・有楽町 打ち水プロジェクト2013

主催：大手町・丸の内・有楽町
打ち水プロジェクト実行委員会
期間：2013年7月26日(金)
～8月31日(土)

■ 東京丸の内盆踊りまつり2013

日時：2013年7月26日(金)
17:30～21:00
会場：丸ビル(1階マルキューブ、外構部)
丸の内仲通り
(丸ビル前～丸の内パークビル前)

毎月第2、第4金曜日は 丸の内 行幸マルシェの日！ ～各地の郷土の食材と巡り会おう



東京駅に直結している行幸地下通路で、毎月第2、第4金曜日に丸の内 行幸マルシェが開催されています。マルシェは、生産者が直接販売するファーマーズマーケット。愛情を込めてつくった安心で美味しい食材や食品を、会話を楽しみながら買うことができます。お米や野菜、果物、海産物など、郷土の食材が所狭しとブースに並び



姿は圧巻で、生産者だからこそ知っている美味しい食べ方や新しい調理法なども教えてもらえるトリピーターの方も増えています。「生産する人」と「買う人」が直接言葉を交わし交流するの市場本来の姿を楽しむことができる丸の内 行幸マルシェにぜひお越しください。

【7・8月の開催日時】

2013年7月12日(金)、7月26日(金)、8月9日(金)、8月23日(金)
11:30～19:30(予定)

会場：丸の内 行幸地下通路(行幸通り地下1階) *入場無料

主催：丸の内 行幸マルシェ 実行委員会

後援：農林水産省、千代田区、フード・アクション・ニッポン推進本部、千代田区観光協会

編集 後記

ネイチャーウォッチングを通して、普段何気なく通り過ぎているオフィス街の隙間に存在する、たくさん自然の姿を発見することができました。これから夏に向けて企画されているいろいろなイベントはもちろんですが、日々の身近な自然に触れることで季節を体感できるのは、大丸有エリアならではの魅力ではないでしょうか。忙しい毎日ですが、ちょっといつとは違う所に目を向けると新しい街の姿が見えてくるかもしれませんね。(K.Y.)



発行：一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会

〒100-8133 東京都千代田区大手町1-6-1

大手町ビル635区

TEL.03-3287-6181 FAX.03-3211-4367

<http://www.otemachi-marunouchi-yurakucho.jp/>

*本誌に関するご意見、ご感想等ございましたら下記までお寄せください。
machi zukuri@otemachi-marunouchi-yurakucho.jp

東京駅 丸の内駅舎周辺ライブカメラ

<http://www.otemachi-marunouchi-yurakucho.jp/live/>

大丸有 MAP-ON ! <http://www.otemachi-marunouchi-yurakucho.jp/map-on/>

「大丸有(だいまるゆう)」とは、大手町の「大丸」の内の「丸」有楽町の「有」からとった造語です。